

草間彌生 YAYOI KUSAMA



反復

「我ひとり逝く」は手前の白いハシゴの上下に鏡が配される作品で、合わせ鏡の中で反復と増殖を繰り返し、ハシゴがどこまでも続くように見える。背後の銀色の立体作品「流星」や草間さんも映りこむ。

5月22日まで 東京・六本木

- ◆ 5月22日(土)まで、東京・六本木の国立新美術館。休館日(5月2日は開館)。午前10時~午後6時(金および4月29日(土)~5月7日(日)は午後8時まで)。入場は閉館の30分前まで
- ◆ 当日一般1600円、大学生1200円、高校生800円
- ◆ 手数料無料のオンラインチケットも。詳しくは公式サイト(<http://kusama2017.jp/>)で
- ◆ 問い合わせ ハロー・ダイヤル(03-5777-8600)
- ◆ キッズデー 28日(土)午前10時~午後4時30分(入場は4時まで)。休館日に、中学生以下の子供と保護者のみが特別に入場して鑑賞できます。中学生以下無料、保護者(高校生以上)は未使用の本展覧会観覧券が必要
- 主催 国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日
- 協賛 鹿島建設、岡村印刷工業
- 協力 草間彌生スタジオ、パナソニック、TOKYO FM



天井高5m、奥行き50mほどの展示室に並ぶ連作「わが永遠の魂」。今も描き続けて500点を超える中から、132点を厳選した。花の彫刻も置かれた鮮やかな大空間に満足げな草間さん。

無数

鏡の作品「生命の輝きに満ちて」。白い巨大な箱に入ると、暗闇の中で、刻々と表情を変える無数の光に包まれ、鏡に映る自分の姿が幾重にも広がる。異空間に紛れ込んだかのようだ。

広がる まだ見ぬ世界

前衛芸術家として世界的に活動する草間彌生さん(88)の過去最大級の個展「草間彌生 わが永遠の魂」が東京・六本木の国立新美術館で開かれて

いる。初期から最新作までの約270点で、常に新しい表現で注目を集め続けてきた草間さんの軌跡をたどる。草間さんとともに展示室を巡った。



推敲

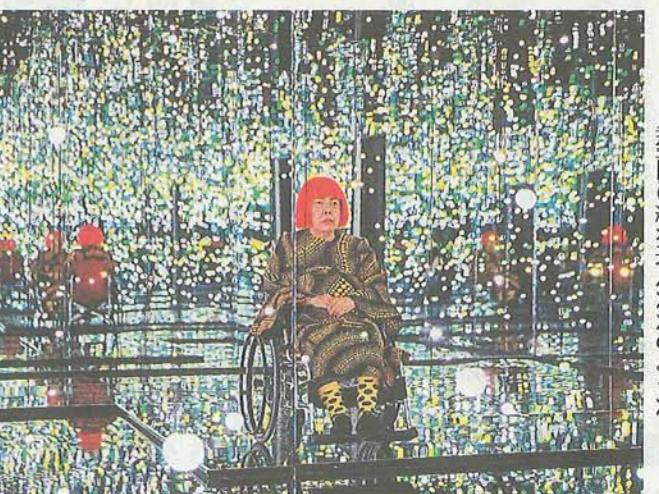
開幕直前まで推敲を重ねた自身のメッセージパネルに、仕上げのサインを書き込む草間さん。

魅了

「何とも愛敬のある形」に魅了されたというカボチャやモチーフは、素材を変えて様々な表現される。樹木が絡み合う「黄桜」の柄も家具や日用品まで込み込んだ。



作品はすべて©YAYOI KUSAMA、写真は鬼室黎撮影



参加

日本初登場の「オブリタリーム」は、来場者がラフルな水玉シールを貼つて、参加型の作品。最初に草間さんが数枚を貼りつけた。